

「瓦版」



2023. October. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

No.16

クメール人の拠り所

～仏教の僧侶と寺の存在感とは～

「国家・宗教・国王」という国の標語に掲げられている通り、カンボジア人の 90%が信仰する仏教（小乗仏教）は、君主や政府と並んで国家の最高機関のひとつとされています。お坊さんは“サンマー・サンポット（仏陀）”の使徒であると信じられており、古代から現在に至るまで僧侶は高い人格と深い知識を持ち、人々に仏教の教えを示す高貴な存在として敬われています。



お坊さんになるには

カンボジアの男性なら誰もが僧侶になることができる。だが、僧侶になるためには条件を満たし、伝統やしきたりを守らなければならない。

【出家するための条件】

家族の合意、地元の行政当局からの住所証明、医師からの証明書（身体的・精神的障害、および持病がないこと）、出家する寺の規定により 3～6 か月間読経や儀礼を学んでおく。

サマネー（見習い僧）としての出家は母親への恩を返すための出家であり、20 歳以下が対象。

ピコ（正式な僧侶）としての出家は父親への恩を返すための出家で、21 歳以上が対象である。

【僧侶になる手続き】

僧侶としての地位を得るために「ボンボッネアック（得度式）」が行われる。証人として家族や親戚などが必要な品々を準備して参列する。この儀式を行うことができない場合は、僧侶にお願いして出家する寺で儀式を行い、寺の住職や僧侶に証人になってもらう。

【僧侶の決まり】

正午を過ぎたら食事をしてはならない（エネルギーにならない水分補給は OK）、昼食の後は寄進を受けない、動物の生肉や酒類を口にしてはならない、異性に触れてはならない、など細かな決まりがある。

ボンボッネアック（得度式）

ボンボッネアックとは「ナーガ（龍）の洗礼」という意味。

昔、お釈迦様の教えに感銘を受けた龍が人間の男に化け、僧侶になって寺で生活していた。だが、



あるとき寝ている間に龍の姿に戻ってしまって大騒ぎになった。そこでお釈迦様は「これからは人間以外の者を僧侶にしてはならない」と決めたので龍は「お釈迦様にお仕えすることが叶わないなら、出家する人にぜひ龍という名を付けてもらい、お釈迦様の使徒になりたかった自分のことを思い出してほしい」と願った。仏教に対する龍の真心を理解したお釈迦様はその願いを受け入れたという。



お坊さんの修業

プノンペンのチャトモック地区、オクニャーチョン通り沿いの宗教省の一角に、プレアソラマルット中学校・高等学校がある。僧侶たちが学ぶ国内最大級の学校だ。プノンペンや郊外から多くの僧侶がこの学校に通い、一般教養に加えて仏教に関する授業を受けている。

この学校では公立学校と同じカリキュラムに加えて、パーリ語、サンスクリット語、経典、宗教比較論など、仏教に関する専門教育を行っている。高校課程を修了した僧侶は、一般の公立・私立大学に進学、国立の仏教大学に進学、僧侶として仏道に専念するなど、進路はさまざま。仏教大学では行政、法学、英語、マネジメント、教育、哲学、文学、情報科学などの学科があり、多くの奨学金を出している。

僧侶は、クメール文化を保護する重要な存在でもある。フランスの統治下で、クメール語をアルファベットにしようとしたフランス統治者に対し、全国の僧侶が反対運動を起こした。今もお寺ではお経とともにクメール語を教えている。また、仏教寺院は僧侶の指導の下で建設され、クメール美術が施されることから、寺はクメール文化のアイデンティティを保護する場でもあるのだ。

功德を積む

カンボジアのカレンダーには通常、月に4回の仏日（トゥガイセル）がある。新月、上弦、満月、下弦の日がこの仏日にあたり、特にお年寄りを中心としたカンボジアの人々は功德を積むために寺に参拝する。朝の5時頃に読経が始まり、そのあと僧侶が人々に“戒め”の説教を行う。カンボジアの仏教信仰では、仏教の戒めを授かることにより、その人の心の欲望を清め、来世の幸せのための功德となるのだという。お寺での受戒は朝6時頃から1時間程度。そのあと煩惱を捨てる人の心を育むため、また功德を積めるよう説法がある。

また、寺には厄払い士がいる。厄払い士は、まず生年月日でその人の運勢を見る。運勢に問題が見つかった人は、呪文によって運勢を高めるか、聖水で清めて厄を払う。厄払いには人間関係の問題、倦怠感、ストレス、身体の不調などを抱えている人が足を運んでくる。厄払いをしてもらうことによって、そういった悩みがなくなると信じているからだ。

クメール正月やプチュンバンに行われる重要な儀式には、仏清め（スロン・プレア）と砂山造り（プーン・プノクサッチ）がある。仏清めは仏教的な概念から行われる儀式ではなく、伝統的にカンボジア人が行ってきた儀式。女性はお釈迦様に触れることができないので、お釈迦様に水を注いで功德を分け与えてもらっていた事が由来だ。

砂山造りも伝統的に行われてきたもので、砂山は仏の髪を安置するストゥーパを象徴している。人が生きる中での悪行を洗い落とす儀式で、葬式や寄進の際にも行われることがある。砂だけでなく、米などを山として積み上げる場合もある。積み始める前に僧侶がお経を唱え、山を解体する時に司祭（アチャー）が解体のための儀式を行う。



カンボジアあれこれ・・・

仙台を中心に陸奥の情報を発信している「陸奥あれこれ・・・」。
今回は特別編として、「カンボジアあれこれ・・・」をお送りいたします！



カンボジアの代名詞ともいえる**アンコールワット**。
現在でも多くの方が祈りを捧げる、現役の寺院です。

もっとも魅力的なのは日の出です。薄暗い星明りの中にアンコールワットのシルエットが浮かび、力強い太陽に照らされてその姿が現れてくるのは荘厳の一言。とても神秘的です。

写真は雨季のものなので残念ながら雲が多いですが、乾季ではすっきりと晴れ渡った空を見ることができます。強い光源がないので星空も大変美しいです。

ベンメリア遺跡は、「天空の城ラピュタ」のモデルになった場所といわれています。崩れた遺跡には木が根を張り、周囲の森に飲み込まれそうになっている光景は、どこか無常観を覚えます。雨上がりの苔むした遺跡は、瑞々しい緑に覆われます。

また、この遺跡はアンコールワットとほぼ同じ形をしており、その大きさは3分の1です。一説によれば、アンコールワットの試作であるとも言われています。



こちらにも有名な**バイヨン寺院**。アンコールワットの北 3.4km にある**アンコールトム**の中にあります。アンコールワットは一つの寺院ですが、アンコールトムは「大きな町」という意味で、中に複数の寺院や遺跡を擁する場所です。

バイヨン寺院の柱や壁には美しいレリーフが数多く残されています。とても広い場所なので、時間に余裕をもって見学するのがおすすめです。

アンコール遺跡群を見学する際には、事前の登録が必要です。
遺跡の保全のため、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

